

生活科の実践

函館市

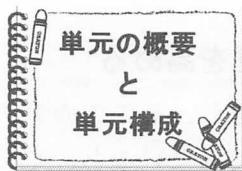
生活科

2年

自分たちの目で、耳で、足で、まちを見直す！

ぼうけん はっけん まちたんけん

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>
この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



この単元は、内容（3）（4）（8）にかかわって、校区内のお店や公共施設を少人数グループで探検する活動です。自分たちだけで町を探検するということで、子どもにとって興奮と緊張を伴った魅力ある活動になります。国語や図工などとの合科的・関連的指導を行うことで、他教科との学びの連続性を図りました。

学習活動の流れ（23時間）

一斉活動からグループ活動へと段階をもたせることで、経験の差に配慮しました。

校内の協力体制の他、保護者の方にもコース上のポイントに立ってもらうなど安全確保に努めました。

探検のまとめでは、クイズや劇化など多様な方法を示し、取り入れさせました。

おしえてまちのひみつ（3）

- 家の周りや通学路などで見つけよう
- みつけたことをカードに書いて交流する

まちをたんけんしよう（6）

- みんなでいってみよう
- 3回に分けて学年全体でまちを歩こう
- 行ってみたい場所や調べたいことを見つけよう

グループでたんけんしよう（12）

- グループ探検の計画を立てる
- 挨拶や質問などの練習をする
- グループ探検に出かける

はっぴょうしよう（2）

- 探検したことをもとに工夫してまとめよう
- 発表しよう

北海道の中で歴史あるまち、函館の小学校の実践です。地域のお店や公共施設を探検することで、地域がぐっと身近になりました。子どもが探検を楽しむうちに、地域を身近にしています。



どきどき！わくわく！がいっぱい

教材・活動の Point!

1. どきどき！わくわく！を大切にする

「冒険」「探検」という言葉を聞くだけで子どもたちはどきどきわくわくします。単元のネーミングは生活科にとって重要なポイントです。探検を一斉活動ではなく、グループ活動にすることで、子どもたちの中に程よい緊張感が生まれました。活動のまとめや発表にもグループごとのよさや工夫が表れます。

2. 人との出会いでコミュニケーション能力が高まる

見学するお店や施設で働く人、お客様、道で行きかう人など、町探検では、地域で暮らす様々な人と出会います。それらの人に対し「自分から進んで挨拶する」「大きな声ではっきり話す」「礼儀正しくする」といったことを事前に繰り返し練習するなど、指導をしつかりとして出発しました。



3. 合科的な指導で学びの連続性が高まる



思考と表現が一体化しているという低学年の特質を生かして、国語の作文や図工などの単元を町探検の表現活動として位置付けました。教科の区別なく連続的に学習を進めることで、生活科の学習が充実するだけでなく、他教科にとっても単元導入の必然性が生まれるなどのメリットがあります。